

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970600167		
法人名	医療法人桃潤会		
事業所名	在宅福祉施設 カーム三珠		
所在地	西八代郡市川三郷町上野2968		
自己評価作成日	平成23年1月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成23年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ADLがほぼ自立している方を入居の条件としている為、比較的に自立度の高い方が入居されている。その為、散歩・買い物・畑仕事等積極的に行っている。利用者は勿論の事、家族とのコミュニケーションを取り、それぞれの本音を出るだけ聞き取り、利用者や家族の立場に出来るだけ近づいて仕事をしよう心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山すそに建つ事業所の敷地内には、同法人の運営する介護老人保健施設があり、グループホームは別棟で1階はデーサービス、2階がグループホームとなっている。自立度が高い利用者が入居されている為、生活上必要な掃除や調理、また、買い物などの作業に、利用者はごく自然に参加して家庭的な日常を過ごされている。また、併設の老人保健施設の医師が週1回の往診に訪れるとともに看護師の指導や助言もあり、日常的に入居者の健康管理を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 在宅福祉施設 カーム三珠

[セル内の改行は、(Altキー)＋(

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			青ユニット	赤ユニット	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との調和を理念に掲げている。	左に同じ	管理者と職員が一緒に話し合い、理念を作成した。理念を事務室の壁に貼り、日常の支援の場や会議の折などに随時、振り返り職員一同が共有して実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じて事業所の事情を常に理解してもらっている。	左に同じ	地域の保育園や中学校の行事、また、地域の防災訓練や文化祭などに参加している。事業所の夏祭りは送迎車にポスターを貼り住民の参加を呼びかけ、和太鼓や踊りのボランティアの他、子供から高齢者まで幅広い年代の参加がある。	検討されている地域の文化祭に利用者作品を出展する計画が実現される事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の社会福祉協議会の皆さんに、事業所で行う行事のボランティアに来ていただいたり、事業所見学などもしていただいている。	左に同じ		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行い、活動状況を報告している。家族の参加もあり、事業所に対しての要望等を聞き、サービスの向上に活かしている。	左に同じ	会議には、利用者及びその家族が毎回順番で参加している。事業所の活動報告の他、地域や行政への要望などを行い、地域や行政よりアドバイスや指導を受けている。出された意見は検討して運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加していただいている。(介護係課長・地域包括支援センター)また、相談等に応じていただいている。	左に同じ	相談事等は、介護支援課に行っている。町外の利用希望者への対応等、適切な指導が受けられている。居宅ケアマネジャー連絡会を市が主催して、2か月に1回会議が開かれ、他事業所との情報交換や学習会が行われ、良好な関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	扉の施錠を開放し、利用者に自由な行動をしていただいている。	左に同じ	外に出たがる人には職員と一緒に歩いて行く。「ちょっと待って」「ダメ」等の言葉でスピーチロックになる時もあるが、職員同士で話し合い注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルに基づいて職員に徹底している。	左に同じ		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している利用者があり、成年後見制度について勉強している。	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			青ユニット	赤ユニット	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書と利用約款を使用し、十分な説明を行い理解・納得していただいている。	左に同じ		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の参加を促し、会議の中で家族からの要望・意見等を聞き、それらを運営に反映させている。また、担当者会議の中でも意見・要望等を聞いている。	左に同じ	運営推進会議や家族の面会時、また、交流会や担当者会議時に意見や要望を聞いている。出された意見や要望は管理者に報告すると共に、毎朝の引継ぎ時に職員に報告し、必要な事は支援に取り入れられたり、プランに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が経営人の為、提案・相談はできる環境にある。	左に同じ	日常的に意見や要望は出し易い雰囲気になっている。「早番の人数」「食堂の椅子」「手当」について等、意見や要望が聞き入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業関係については、管理者が職員とのコミュニケーションを図り理事長に伝え、労働時間は勿論の事、給与水準など回りの事業所の情報なども代表者に伝える仕組みが出来ていると思う。	左に同じ		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が全国のグループホーム協会の役員で全国での実態を情報収集して取り入れ、良い所は実践に結びつけようと心掛けている。	左に同じ		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年3回のグループホーム協会での研修の場を設け、同業者と交流する機会を作っている。その他、全国グループホーム協会での情報を取り入れている。	左に同じ		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と話し合う機会を作り、困っている事や不安な事を聞き安心して生活できるよう努めている。	左に同じ		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するまでに気軽に訪問していただき、話せる雰囲気作りにも努めている。	左に同じ		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の実情や要望について、しっかり把握出来るよう努めている。	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			青ユニット	赤ユニット	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族から本人の特徴や趣味などの情報を出来るだけ得て、本人らしい生活が送れるよう心掛けている。	左に同じ		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況を踏まえ話しをしている。また、本人の要望等を叶えられるよう、家族にも協力を得ている。	左に同じ		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に利用者の居場所を伝えてもらい、事業所に訪ねてくれるようお願いしている。気軽に面会出来る雰囲気作りに努めている。	左に同じ	本人の希望を聞いたり、家族より情報を得て関係が途切れないように努めている。帰宅要求や墓参り、また、趣味の教室に通う希望が出る事もある。兄弟が訪ねて来る事もあり、家族の協力を得ながら、関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格・好み・持っている力等を把握し、日常の中でそれぞれの利用者が活躍できる場を提供しながら自然なコミュニケーションを促進している。	左に同じ		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、関わりを必要とされる場合、その後の相談・支援を行っている。	左に同じ		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の生活歴を把握し、利用者の暮らし方の希望に沿えるよう努めている。困難な場合には利用者本位に検討し、希望に少しでも沿えるよう努めている。	左に同じ	利用者の生活歴を元に、日々の会話時やアセスメント時に、思いや意向を確認している。畑仕事の希望には、冬場は中庭にコンテナを並べ、苗木や花の世話をしたり、趣味が途切れず継続出来るよう、思いや意向に添った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族との面談の場で情報収集している。また、面会時にコミュニケーションを取りながら情報収集している。	左に同じ		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の変化や心身の状態を具体的に記録し、有する力・心身状態などを職員間で共有している。	左に同じ		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の中で、家族と本人から要望等を聞き、日常の生活に取り入れている。また、職員間で随時、カンファレンスを行っている。	左に同じ	ケアマネジャーが中心となり利用者や家族、スタッフとのカンファレンスを行いながら計画を作成している。状況により随時、計画の修正がされ、3か月に1回モニタリングを行いプランに反映している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			青ユニット	赤ユニット	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を個別に記録し、職員間で情報を共有している。	左に同じ		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自分らしい生活が送れるよう、その時々生まれるニーズに出来るだけ対応していきたい。	左に同じ		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	あまり活用出来ていない。今後、困難事例等が出た時には地域資源等を活用していきたい。	左に同じ		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医を決めていただき、気軽に相談出来る医療機関を確保している。	左に同じ	入居時に事業所外の主治医を決めてもらう。元のかかりつけ医を継続される人や、近くの診療所にも変わる人もある。受診は家族の付き添いを基本としているが不可能な時は、職員が付きそっている。併設の老人保健施設の医師が週1回、往診を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と様子が違う時には看護師に相談し、必要に応じては病院を受診している。また、病院受診時には日常の様子を主治医宛てに手紙を書き情報を伝えている。	左に同じ		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを作成し、情報を共有している。また、入院中の様子などを病院関係者と連絡をとっている。	左に同じ		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の対応として、入居時に特別養護老人ホームの申請を勧めている。また、事業所内で重度化した時には、早めに病院を受診し、早い段階から対策を取っている。	左に同じ	入居時ターミナルへの対応はしていない事を説明し、歩けなくなったり体力低下や、病状悪化に備え、老人保健施設や特別養護老人ホームへの申し込みを勧めている。病状悪化時は早めに病院受診を勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に併設の施設と合同で、救急時の対応等の研修を消防署を含め行っている。	左に同じ		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の施設と共に避難訓練を行っている。その後グループホーム独自で避難訓練を行っている。	左に同じ	併設の老人保健施設と共に消防署立会い、年に1、2回避難訓練を行っている。地域の防災訓練にも参加したり、グループホーム独自の避難訓練も行っているが、緊急連絡網の訓練は行っていない。	災害はいつ、どのような形で起きるか分からない為、緊急連絡網の訓練は必要と思われる。夜間を想定した訓練も加えて連絡網の訓練を希望したい。

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			青ユニット	赤ユニット	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないよう職員同士で心がけている。また、気づいた時にはその場で注意するようにしている。	左に同じ		その人に合った言葉かけを心がけ、呼び方については入居時に家族や本人に確認して呼んでいる。支援の場ではプライドを傷つけないよう心がけているが、何か気がついた時はその場で、職員同士で注意し合っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や仕草などを注意深く観察し、本人が希望を表したり自分で判断出来る様に支援している。	左に同じ		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの日課に沿って日常生活を過ごしていただいているが、本人の希望を確認し拒否が強い時には無理しないよう支援している。	左に同じ		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は昔に着ていた服などを持参してもらっている。本人の好みの服を着るよう、入浴時には本人と一緒に服を選ぶようにしている。	左に同じ		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に合わせ、出来る事を職員と一緒にやっている。	左に同じ		一人ひとりの力に合わせて、皮むき・調理・盛り付け・洗い等の食事作りに参加している。男性利用者も、ごく自然な振るまいで食器洗いを行っており、和やかな雰囲気となっている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分制限がある方や、特別食の方に配慮している。個々に食事量・水分量のチェックを行い、必要なエネルギーを摂取できるよう努めている。	左に同じ		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。利用者の力に応じ、一部介助しながら行っている。	左に同じ		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導し、自立に向けた支援を行っている。	左に同じ		一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけをしてトイレ誘導したり、仕草や表情で判断してトイレ誘導をしながら、自立に向けた支援を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食品の摂取に心がけている。また、排便困難の方には寒天ゼリーの摂取を促したりと個々に応じた対応を行っている。散歩等も積極的に行っている。	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価		
			青ユニット	赤ユニット	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各ユニットごとに隔日に入浴している。タイミングを合わせ入浴に誘導している。また、1番風呂に入りたいとの希望等を優先している。	左に同じ		隔日の午後、週3回の入浴を基本としている。入浴を拒否する人には、時間を見計らい再度、声かけしたり、他の利用者から声かけしてもらおうと入浴に応じる事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣がある方などには、その習慣を尊重している。一人ひとりの生活習慣を尊重し、夜間消灯の時間が過ぎても談笑が出来る場を設けている。	左に同じ			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋より薬の内容・副作用等を把握している。また、薬の変更等での副作用等にも注意を払っている。	左に同じ			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴に合わせ、個々が喜びのある日々を過ごせるよう、買い物・畑仕事・掃除・洗濯たたみ等を依頼している。	左に同じ			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年2回親睦会を開催し、普段では行けない所に出掛けている。また、1か月に1回、外出の機会を作り、季節にちなんだ場所へ外出している。一人ひとりの希望に沿っての外出はなるべく出来る様に支援していきたい。	左に同じ		食材の買い物や近隣への散歩は、季節や天候を見ながら毎日、午前中に行っている。月に1回、季節にちなんだ場所への外出や、年に2回の親睦会の内、1回は家族と共に遠出の外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には利用者の小遣いは職員が預かり管理している。自己管理ができる方には少ない金額を財布に入れ管理している。支払える力がある方は、財布より支払うよう支援している。	左に同じ			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという方には、かけるお手伝いをしてる。	左に同じ			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にちなんだ掲示物を作成し、季節感を取り入れている。また、季節の花等を散歩の際に摘みフロアーに飾っている。	左に同じ		フロアーの壁には、季節にちなんだ利用者の作品や、外出時の楽しい写真が飾られている。テレビ観賞フロアーにはソファが置かれている。食事は3人用の丸テーブルで、落ち着いて食事が取れる配慮がされている。風呂場は家庭用で安心して入浴が楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを設置したり、畳にコタツ等を用意している。	左に同じ			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			青ユニット	赤ユニット	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって馴染みの家具等を持ち込んでもらうよう、家族に促している。	左に同じ	居室は畳の部屋と、フローリングの部屋の2通りある。それぞれ、馴染みの小物を持参している。広くゆったりした部屋のカーテンを開けると、眼下に周囲の山々や街並みが見下ろせ、落ち着いて過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	持っている力を活かし、安全に生活できるように居室の工夫を行っている。	左に同じ		